

網川 章さん(2022年度 7次隊 / 派遣国:セントルシア / 職種:鍼灸マッサージ)

2020年、私たちが派遣前訓練を受けていた時、にほんまつ地球市民の会の皆さんが懇親会を開催してくれ、大内さん、佐藤さんと佐藤さんの娘さんに会いました。私が全盲で70歳と知って、同じ年の大内さんは元気付けられたそうです。任国から手紙を出しますと言いましたが、コロナ感染症の影響で派遣延期。2022年8月、私たちはセントルシアへ赴任しました。カリブ海にあり、エメラルドグリーンの海が美しい常夏の島国です。私の活動は、視覚障害指圧師の養成でした。2年間の活動でセントルシア初めての指圧師を7人育てました。困ったことは、日本への郵便が閉鎖されたままで約束の手紙をだせませんでした。帰国後、大内さんと佐藤さんに連絡が取れ、再会が実現しました。二本松駅前の市民センターでお会いし、JICAカレンダーをプレゼントしました。その6月のページに活動中の私達の姿があります。5年ぶりの二本松訪問は故郷に帰って来たような懐かしさと暖かい人情を感じました。



現地レポート モンゴルで活動中!

千葉 尚美さん(2024年度 1次隊 / 派遣国:モンゴル / 職種:青少年活動)

〈活動の様子〉モンゴル第二の都市ダルハンにある孤児院(児童養護施設)で、子どもたちに音楽や日本文化を教えています。

〈今後の予定等〉私の配属先は日本のNGO団体の支援で運営されており、日本から支援者の方がいらしたり施設の子もたちが訪日したりと、日本とのつながりが大変深い施設です。今年で25周年を迎えますので、その記念行事に向けて様々な歌や楽器を教えています。また、現職教員として参加しておりますので、帰国後の授業に生かすためモンゴル音楽…馬頭琴、揚琴(ヨーチン:ダルシマーのような楽器)、箏(ヤタカ)を学んでいます。配属先外では市内で日本語を学んでいる高校生を対象に日本の歌を教える活動を予定しています。



福島県にゆかりのあるJICA海外協力隊 派遣状況 世界20カ国 21名が活動中!

- | アフリカ地域 | アジア地域 | 大洋州地域 | 中南米地域 |
|---|---|-------------------------|--|
| ●ガーナ
●ケニア
●マダガスカル
●マラウイ
●モザンビーク | ●カンボジア
●東ティモール
●ブータン
●ベトナム
●マレーシア | ●バヌアツ
●パラオ
●マーシャル | ●モンゴル
●ラオス
●エルサルバドル
●キューバ
●パラグアイ
●ペルー |
| | 中東地域 | | |
| | ●ヨルダン | | |

二本松と世界を繋ぐ30年

Bridging Nihonmatsu and the World ~our 30-Year journey~

二本松訓練所 開所30周年

記念イベントを開催!

二本松訓練所は、1994年末に開所し、1995年1月に第1期生を受け入れてから、30周年が経ちました。2025年4月12日(土)には、開所30周年記念イベントを開催。(2025年春の募集説明会も同時開催!) 所内案内、語学訓練体験、訓練所食堂でのエスニックランチ(有料、事前予約)など、他では経験できない企画をご用意しています。

詳しくは…〈JICA二本松ウェブサイト〉<https://www.jica.go.jp/domestic/nihonmatsu/index.html>

また、開所当初から30年間、多くの訓練生やスタッフが、二本松市内と訓練所を繋ぐ大切な公共交通手段として、福島交通様のバスを利用させていただいています。「二本松と世界を繋ぐ30年」をテーマに、福島交通様とのコラボで、30周年記念ボールペンを作成しました。今後各種イベントにご参加いただいた方々に配らせていただく予定です。



地域のJICA窓口! JICAデスクのご紹介

お気軽にご連絡ください!

JICA福島デスク ▶ 松山 里美

TEL. 024-524-1315
E-mail: jica_fukushima_desk@jica.go.jp
福島県福島市舟場町2-1
福島県庁舟場町分館2階(公財)福島県国際交流協会内



JICA郡山デスク ▶ 室井 研一

TEL. 080-3148-2105
E-mail: MUROI-Kenichi2@jica.go.jp
福島県郡山市朝日一丁目23-7
郡山市役所西庁舎4階 郡山市役所産業政策課内



あなたにぴったりの国際協力を探してみよう!

- 出前講座 ● 訪問学習
- パネル・民族衣装貸し出し
- 教師海外研修 ● エッセイコンテスト
- 開発教育教材 ● 図書資料室
- 広報展示室 ● JICAインターンシップ
- 「世界の笑顔のために」プロジェクト
- JICA海外協力隊応援基金
- PARTNER(国際キャリア総合情報サイト)



発行元

独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局

二本松青年海外協力隊訓練所

〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel:0243-24-3200 Fax:0243-24-3214



いつか世界を変える力になる



二本松青年海外協力隊訓練所 Vol.59

ADATARA



巻末特集

ウラ面をご覧ください

- 特集!おかげさまで30周年 二本松青年海外協力隊訓練所
- 開所30周年記念イベントを開催!〈告知〉
- 〈帰国・現地レポート〉〈福島県にゆかりのある協力隊派遣状況〉



リニューアルしました

国際キャリア総合情報サイト JICA PARTNER

リアルタイム情報は こちらから



Facebook



X(旧Twitter)



JICA海外協力隊HP

おかげさまで30周年 ▶▶▶ 二本松青年海外協力隊訓練所

30年前の開所当時と、現在の訓練総括に、訓練(所)について、インタビューしました。
初代の津川総括は、現在、よろず相談室(訓練中の不安や悩みを個別相談できる)で、多くの訓練生の力になっていただいています。



初代 津川 智明 総括に聞いた!

あの頃

自己紹介 昭和52年度 2次隊後期組(派遣期間:1978年4月

~1980年4月) / 土木設計 / マラウイ …………… 津川智明さん

昭和52年度2次隊後期組、マラウイに土木設計で派遣されました。国内は協力隊事務局で国内協力員、駒ヶ根と二本松の訓練所で勤務しました。在外は、ウガンダとブータンで協力隊の調整員(現「企画調査員(ボランティア事業)」)、JICAの技術協力プロジェクトの専門家としてブータンの地方行政支援に携わりました。



最も印象に残っている訓練エピソード

「朝の集い」と「野外訓練」です。朝の集いはできる限り玄関前の広場で行いました。身震いする寒さのなか朝日を正面に見ながらNHKラジオの生放送でラジオ体操をしました。そして赴任国の国旗掲揚をします。野外訓練は相馬市の海浜自然の家で行いました。2泊3日で、任地の生活に役に立つであろう鶏や魚の料理法、散髪、トイレの設置、水のろ過など、訓練生が専門や特技を活かして講習を行いました。

訓練最終日の前日に、所外活動の一つとして、お世話になった地元の皆さんへの感謝の気持ちを込めて岳温泉街の清掃を全員で行いました。



当時の講座

通常の講座とは別に、特別講座としてNHKラジオ体操の青山敏彦氏と長野信一氏、第2代協力隊事務局長で「ボランティア・スピリット」著者の伴正一氏、龍谷大学経済学部教授の中村尚司氏、都立東大和高校野球部監督の佐藤道輔氏、言語学者で「外国語上達法」著者の千野栄一氏等に、講義と実技をしていただいたことが印象に残っています。ほとんどの講座は市民の皆さんにも公開され、毎回市民の参加がありました。

夜の特別講座には「伝承遊び」「茶道」「華道」などを二本松市内の講師に教えていただきながら交流ができました。



最も大切にしていたことは何ですか?

課業や各種行事をとおり、訓練生同士の繋がりを深め、互いに協力しあうことを大事にしました。5分前集合を徹底し、周りへの心配りと迷惑をかけないよう指導しました。



現 羽田 一三男 総括に聞いた!

いま

自己紹介 昭和63年度 3次隊(派遣期間:1989年3月~1992年3月)

/ 自動車整備 / 中華人民共和国 …………… 羽田一三男さん

協力隊としてアフリカに行くことを夢見て、好きだった機械いじりを学び、実務経験を積んで25歳で中華人民共和国に派遣されました。中国は知れば知るほど難しく、日本と似ているところが多ければ多い程、異なることを実感し、もっと知りたいと考え、同様に協力隊も分からないことが多いけど興味が日に日に増していきました。



現在の訓練

共同生活や共同作業を通じた集団合宿形式の訓練を基本としていることは以前から変わっていません。ただし、訓練生の平均年齢が26歳前後だったものが35歳前後に変化するとともに、共同生活の中身も変化してると言えます。



現在の特徴的な講座



オンデマンド講座や駒ヶ根と二本松の二元オンライン講座、東京、駒ヶ根、二本松を繋ぐ三元オンライン講座があります。また、任国研究として、直接在外事務所とオンライン接続する在外オリエンテーション、活動中の隊員が講師を務める任国事情講座は以前には無かった形です。

最も大切にしていることは何ですか?

- ▶ 新しい物に反発することなく好奇心旺盛に興味を持つこと
- ▶ 新しい事に失敗をしても良いのでチャレンジすること
- ▶ 新しい取り組みに対して目標を定めて、進捗管理を行いながら確実に前進すること
- ▶ 新しい出来事に対して、他人事ではなく、自分事として受け止め行動すること
- ▶ 他人に興味を持ち、観察し、必要な配慮が出来ること

